

「がんばる島」を「みんなの島」に

(引く張る)

6 月議会の所信表明(要約)

この度、ご勇退された山内前町長は、4 期 16 年もの長きにわたり町政進展にご尽力され、激動と変転する時代を「自立・挑戦・交流」をスローガンに、産業や教育・福祉等の分野において、先駆的な取り組みを実践し、数々の成果を上げながら島内外へ情報発信するなど、交流の輪を広げてきたことは周知のとおりでございます。

そして、本町は地方創生の先進或いは成功事例とも称され、多くの視察者が訪れるなど、全国から注目を集めるまでになりました。しかしながら、私も職員として山内前町長の下で約 16 年間共に仕事をさせていただきましたが、海士町の置かれている状況は挑戦真つ只中の一過程に過ぎず、改革の手を緩める状況にありません。正にこれから海士町の正念場であり、真に持続可能な島づくりを目指していくために、その覚悟が問われる段階に差し掛かっています。

そこで、私は町政に掲げるスローガンを「心一つに、みんなでしゃべる島づくり」としました。これまでの町政の指針である「自立・挑戦・交流」を踏襲し、質的転換を図りながら、さらに、海士に根づいた伝統文化や半農半漁の暮らしや絆を大切にしたい。「継承・団結」の思いの下、みんなが引く張る島づくりを目指し、町政運営の舵取りを担って参ります。

「自立」とは、地域にある資源の価値を見つめ直し、磨き、活かすこと、人も経済も自然環境も、循環する島づくりを進めること。「挑戦」とは、老若男女や規模の大小を問わず、地域の魅力を高めるための様々な取り組みを応援し、粘り強く挑戦し続けられる島づくりを進めること。「交流」とは、心が通う多様な交流を重ねること、地域への誇りや愛郷心を育みながら、新たな活力を生み出す島づくりを進めること。「継承」とは、地域の課題解決を図りながら、海士に根づいた伝統文化や方言、半農半漁の営みなど、田舎だからこそ豊かに暮らせる風土を継承する島づくりを目指すこと。「団結」とは、海士町の置かれた状況を再確認し、評価と反省の上に立つて、世代や立場を超えて、寄り合い、助け合い、意見を交わしながら「楽しく幸せに生きる」確かな未来を、町民の皆様と共に創り上げていくことを目指していくものです。

このような五つの指針を実現していくために、要となるのは、やはり「人づくり」です。今まで以上に行政と議会が、そして町民の皆様とが「一丸となって進めなければならぬ」最重要課題と位置づけるところであります。正に私たちの本気度が問われております。

そこで私は、まずは役場職員の「人づくり」を進める一環として、「半官半 X」と称する新しい働き方を導入する考えです。職員自ら地域の担い手となることを目指し、「半官」は公務員として本業に専念しながらも、「半 X」の域に興味や特技を活かし地域振興に資する新たな挑戦などを業務の一環として取り入れる、いわば公務員版

マルチワーカー的な働き方を推し進めたいと考えております。「半官半 X」により「継承・団結」を達成するための一助になるものと確信するところであります。

また、主要なまちづくり政策等に関し、企画立案から採用実施の可否、そして実施後の評価・検証作業までを含めて、世代や立場を超え、町民の皆様と意見や議論を交わす場とその運営組織(仮称「みんなの島づくり委員会」)を本年度の早い時期に立ち上げ、来年度以降の主要政策の骨格にこうした組織の意見や提案を反映する考えであります。

よりよい海士町を創り上げていくために、町議会をはじめ、町民の皆様と団結して「チーム海士」として諸問題の解決に当たる所存でございますので、一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



みんなで、しゃべる。
みんな、でしゃべる。
そげなほどのヤル気で
頑張っていきましょう!

海士に新町長 大江和彦氏

無投票当選

山内前町長「彼しかない」

任期満了にともなう海士町長選挙が平成30年5月15日（火）告示され、無所属の新人で元役場職員の大江和彦氏のほかに立候補の届け出はなく、無投票で当選が決まりました。

大江氏は海士町出身の58歳。1985年にUターンし、86年に入庁。産業創出課長や地産地商課長を務める傍ら、島づくりのためのさまざまな地域活動を積極的に応援し続け、今年3月に退職。山内町長（当時）から、

「この町の改革の16年間の歴史と、その苦しみを肌で知っている者にしか次期町長は務まらない」という熱烈な後押しを受け、町長選挙立候補を決意しました。

当選が決まった大江氏は、「山内町長の政策で島のブランド化はできた。ただ、福祉、医療、産業、教育をはじめとする各分野における担い



役場前で行った最後の街頭演説では山内町長（当時）が応援演説する姿も

手不足などの課題は多いので、今後は現場に担い手が誕生するよう、ソフト面の取り組みを行っていききたい」と抱負を語りました。



就任式での町旗の引継ぎ

いまだ変革の途上 「これからが正念場」

5月31日（木）、大江和彦町長が就任しました。任期は平成34年5月30日までの4年間です。

役場庁舎で行われた就任式で、大江新町長は、「正にこれらが海士町の正念場であり、真に持続可能な島づくりを目指していくために、その覚悟が問われる段階に差し掛かっている。職員の皆さんには、これから4年間、私と共に町政発展のため、一緒になって汗をかき、努力を重ねていただきたい」と挨拶。

『心ひとつに、みんなでしゃべる（引つ張る）島づくり』を町政スローガンに掲げ、「これまでの町政指針である『自立・挑戦・交流』を踏襲し、質的転換を図りながら、深みと奥行き感のある島づくりを進め、さらに、海士に根づいた伝統文化や半農半漁の暮らしや絆を大切にしたい（継承・団結）の思いのもと、みんなで引つ張る島づくりを目指し、海士町を盛り上げて行きたい」と述べました。



片桐選挙管理委員長から当選証書を受け取る大江氏（5月21日）



就任式後、さっそくマスコミの囲み取材が。ぶち上げた『働き方改革』についての質問を受け、「個々の職員が、地域振興を軸とした柔軟な働き方で生き生きと活躍できるように、半官半民（公務員版マルチワーカー）の新制度の骨格を今年度中につくりたい」と明言。